

青葉区折立地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 3 月 15 日掲載)

(1) 折立地区の現在の様子

① 被災状況と現在の様子について

震災当時からテレビや新聞等で、大々的に報道された内陸部の被災地、折立団地は当地区にあります。そのなかでも被害が大きく、使用不能になった家屋は約 100 軒あり、土台から崩れた家屋が撤去されたままの状態、道路も寸断されているところがあります。

小学校は使えなくなり、無事だった中学校敷地にプレハブ校舎を建てて、そこで勉強しています。平成 26 年度までには改修により元の小学校が再開できるのを待っているところです。

一方で、今まであまり交流のなかった小学生と中学生とが同じ敷地に通っていることもあり、小学生はお兄ちゃん、お兄ちゃんとともに楽しそうにしています。子どもたちは皆はつらつとした様子で、別々の校舎に戻ることを寂しくも感じています。

② 被災者の暮らしと課題について

被災者は借上げ住宅（市営住宅）に町内単位で転居したり、震災直後に避難所から民間アパートなどに個人で転居したりしています。被災した住宅ローンを払いながら、さらに家賃を払うのは大変なことと思います。行政より家賃の補助はあるものの、それも期限付きなので心配しています。

地元に戻りたいが危険区域なので戻れず、移転費用も未解決であり、住民組織で行政との話し合いを行なっているものの、なかなか進まず困っているという状況があります。また、高齢者が多く、新しく家を建て直すにもお金がかかるため、半分あきらめている人も多いと感じられます。



△▽震災直後の地区民児協副会長宅

(2) 折立地区の民生委員・児童委員活動

折立地区民児協は委員が 10 名と少ないですが、全壊が 1 名、大規模半壊が 1 名、半壊が 3 名、一部損壊が 5 名とそれぞれに被災しました。それでも皆が民生委員・児童委員として震災直後から 10 日間にわたり避難所の手伝いをし、被災



者による自主運営を支援しました。現在は、遠い人で7～8km離れたところの住民のもとへ、車を走らせて毎日のように訪問している委員もいます。

折立地区には、他地区の被災者の方々も転居してきています。3月には交流サロンを開催し、地域の一員として早く馴染んで下されば幸いと思っています。サロン活動は震災前から、地区をさらに4, 5箇所に分けて、月に1回行なってきました。避難されてきた方にも積極的に参加への声かけをしたり、当日車で迎えに行ったりしています。

また、折立地区災害対策連絡会に参加し、震災時の反省をもとに、今後のためのマニュアル作りをしました。避難所も見直し、避難経路も変更しました。また、各町内にプレハブを建て、3日分の備蓄用物資などを用意することにしました。震災がないことが望ましいのですが、寝たきりの方や障がいのある方も遠慮せず、避難できる場所を用意しておくべきだと感じています。

(3) 終わりに

今回、日本全国の方々による優しく心温まる多大なる支援に、大いに感動しました。

困った時の助け合いの精神をあらためて勉強させていただき、今後万が一同じ様な災害を受けた地域が発生した場合は、恩返しをさせていただきたいと思います。